

## 募集広報活動の新たな取り組みについて2(1)

産業デザイン科 高松 徹  
電子技術科 浦野 勉

### 1 はじめに

当校の応募状況は年々減少の傾向を見せている。「どうすれば技術系の職業を目指す学生が増加するのか」という問題に取り組むため、ボランティアの学生スタッフと職員が共同で運営・制作する形態で、令和2年度にスタートさせた「学校通信制作プロジェクト」は本年度で3年目を迎えた。令和2年度に実施した「技術系女子活躍推進プロジェクト」を継承し、どうすれば女性が活躍できるかという内容を特設企画として再び盛り込み、より女性にアピールすることを目指した。活動内容はその都度校SNSでアップするが、本年度は学生リーダーがその原稿作成も担当した。

作成された学校通信は、関連機関へ送付するとともに、校のホームページでも閲覧できるようにして、募集PRの手段としている。

この試みを引き続き検証し、新たな募集・広報活動として試行していくとともに、学生主導の実践的な授業形態としても検証していくこととする。

### 2 研究経過

令和4年度6月に上記プロジェクトの学生ボランティアスタッフを募集し、学校通信制作プロジェクトをスタートさせた。プロジェクトは課外活動時間となることにも関わらず、産業デザイン科2年生4名、1年生22名、計26名の学生からの応募があった。

実施状況は、6月下旬～9月上旬の水曜日の放課後に、90分×8回での活動となった。各プロジェクトとも学生リーダーを選出し、学生が主体となって活動することに注力した。

### 3 研究成果

学生と職員が一丸となって取り組む同プロジェクトは、今年3年目を迎えたが、取り組むごとに新たな発見もあり、着実に実績を刻んでる。

#### 3.1 学校通信制作プロジェクトの成果

学生自らが、記事の内容を卒業研究、授業内容、イベント、女子活躍推進、ギャラリーの5分野に分け、各チームごとに計画を立て、取材や原稿作成を行った。

タイトルは、第1号からの「MAKEIT」を継承し、9月に第4号を発行した。令和3年度発行の第3号では、全体的に段組み形式を取らないコラムレイアウトが増え、右開き体裁の意味を見出せず、全体的に乱雑な印象を抱くなどの問題が生じたことを反省し、今回は基本に立ち帰り当初企画の4段組みレイアウトを極力取ることとした。その結果、スッキリとした読み安い8頁中綴りの冊子が完成した。きちんとした段組み形式を取りつつも、要所に効果的なコラムレイアウトを混ぜることにより、単調にはならず、現役高校生の目線で楽しい学生生活を想起させる誌面作成となった。



図1 学校通信第4号「MAKE IT」

#### 3.2 広報成果

毎回のプロジェクトでは、前回の振り返りと次回への作業確認ミーティングを実施するとともに、校Twitterに活動の様子を掲載したほか、制作した学校通信を印刷し、県内の高校へ配布するなど、第1号から続く手法で活用した。

### 4 おわりに

本年度も学生が主体となって計画を立て、取材・原稿作成・DTP作業・出力・製本まで自主的に行った。また、先輩から後輩への技術指導もしっかりと行え、コミュニケーション能力の向上や問題解決能力向上など、非常に密度の高いプロジェクトとなり、教育効果も高かった。広報手段としての活用方法に関しては、各校への配布や、SNSの利用を実施したが、更なる効果的な活用方法を検討していくこととしたい。